



標 高約340mの壇山は、ちょうど島の中央辺りにそびえる豊島最高峰。家浦港からいくつものヘアピンカーブを経て、壇山頂上展望台への案内板に沿って分岐点を左へ。たどり着いた展望台では、瀬戸の眺望が迎えてくれました。東側を望むと、はるか眼下に唐櫃港（上写真）。その向こうに小豊島、小豆島の海岸線が連なりまします。西側は、まさに多島美！ 井島、直島の向こうに見えるのはもう岡山県です。美しい夕日も期待できそうなスポットです。

展望台から分岐点に戻り、もう少し先へ行くと、今度は岡崎公園のゆったりとした眺め。ここからは女木・男木島や屋島、高松の風景が南側の対岸にかすんで見えます。右手の奥の方には、瀬戸大橋の小さな影も。みずみずしい芝生の中に建つあずまや、広場には桜の木が並び、春は華やかな海景色が楽しめることでしょう。

壇山から唐櫃港へ下りる道沿いにも視界が大きく開けるところがあります



岡崎公園からの眺め



神子ヶ浜

が、今回は家浦港の方へ下り、島の西側へ回ってみましよう。海水浴場のある神子ヶ浜は、なかなか風情のある穴場スポット。対岸に直島、浜の西側にはダッダカ鼻と呼ばれる岬がグッと突き出し、変化のある眺めが広がります。

さて、家浦港に戻って、今度は県道255号沿いに南下、甲生地区の方へ。この辺りでは、段々畑からの海景色が楽しめます。道なりに進むと、やがて

アートだけじゃない！ 「豊かな島」は自然も魅力

瀬戸内国際芸術祭をきっかけに、今やアートの島として世界中から多くの人が訪れる豊島。今回は風景を追いかけて、島を一周してみました。

エリア 豊島

唐櫃岡、唐櫃浜地区。芸術祭の作品や豊島美術館などアートのスポットが集まるエリアで、地図を片手に電動自転車で行き来する観光客の姿も。「清水霊泉」から豊島美術館に抜ける坂道は傾斜が大きく、海に飛び込んでいくような爽快感があります。唐櫃と家浦を結ぶフェリーから見える棚田も、ちょうどこの辺りです。

唐櫃浜地区に出たら、船に乗る前に、宮崎の方へちょっと足を延ばして、「心臓音のアーカイブ」がある浜へ。寄せては返す波音を聞いていると、なんだか心まで洗い流されていくような、不思議な心地よさを味わいました。



甲生地区の段々畑



宮崎の浜辺

島の何げない豊かさを再発見

島キッチン 店長 藤崎 恵実さん

島の人たちが運営するレストラン「島キッチン」で店長を務める藤崎さんは、以前岡山で働いていましたが、2010年の芸術祭をきっかけに生まれ育った豊島に戻ってくることを決意。アートの島として知名度が



船から見る棚田

上がり、移住者も増えて活性化が進む島の様子を見つめてきました。「豊かな島という文字が表す通り、物の豊かさ、そして人の豊かさにあらためて気付きました。人々が関わりあい、地域があってこそキッチンも成り立っています。島の豊かさを住民である私たち自身がしっかり感じて、皆さんに伝えたいですね」。



藤崎さん

何げない島の日常風景に包まれると、「自分が自分らしくいられる」という藤崎さん。お薦めは壇山の、それも夜の風景だそう。「昼の山頂ももちろんですが、夜、星空を見ると感動しますよ。船から見る棚田もきれいで、豊島に来るなら、1日たっぷり使って、ゆっくり過ごしてほしい」。時には一泊して、夜の豊島も堪能してみてもいいのでは？

問 島キッチン ☎0879-68-3771